

医療組織に関する学際的研究

Interdisciplinary research on medical organization

研究代表

黒澤 壮史

KUROSAWA Masashi

所 管：情報科学研究所

研究期間：令和2年度～令和4年度

研究代表者：黒澤 壮史（本学准教授）

研究分担者：高橋 淑郎（本学特任教授）、高橋 意智郎（本学教授）、
金澤 大祐（本学准教授）

研究の目的・概要

本研究は、昨今世界に深刻な影響を与えている新型コロナウイルス感染症問題を受けて、その社会的重要性をますます高めている医療組織のマネジメントについて学際的な研究を通じて知見を提供することを目的としている。

医療組織は、社会的存在感や特殊性から医療経営など独自の学問領域が成立している一方、経営学領域においても研究対象として扱われることが多い。その一方で、領域ごとに様々な知見が分断されているため、本研究課題では非営利組織研究、経営組織論、経営戦略論、法学、などの多面的な観点から研究を遂行する。本研究が志向しているのは、医療組織に関する研究を専門領域の異なる学際的な研究知見のインタラクションを通じて新たな知見を生み出すことを意図するものである。

本研究課題の分担者である高橋はこれまで、民間企業が導入を進めているバランストスコアカードの医療組織への応用を論じてきた。また、平松はミクロ的観点から医療組織について研究を重ねてきた。その意味で、高橋は研究対象としての医療組織や非営利組織全般について知見がある。

加えて、本研究課題の代表者である黒澤は、これまで組織変革や戦略形成プロセス、イノベーションといった領域について研究を重ねてきた。とりわけ、組織のミドルや現業メンバーによるボトムアップ型のコミュニケーション戦略（学問的にはissue sellingやupward influence）についての研究を通じて、トップマネジメントだけでなくあらゆる階層のメンバーが主体的に組織のポジティブな変革に参加するような組織のあり方について研究を重ねてきた。医療組織はとりわけ職域によって権力構造が異なる領域である（医師が非常に強い）ため、組織全体の活性化という観点からも、ボトムアップ型のコミュニケーションや現場の主体性といった研究は医療組織にとって意味のある研究になると考えている。

最後に、金澤はこれまで法学・法務的な観点から研究を重ねてきた。医療組織は一般的な民間企業に比べて制度的な制約条件が多く、それらの多くが法制化ないし所轄官庁による明文化された制度や暗黙的な慣習によって規定されることが多い。そのため、法学だけ

でなく法務的な観点からの研究蓄積がある金澤によるアプローチは学際的研究において非常に重要な役割を占めている。

医療組織は、単なる非営利組織の一形態というだけでなく、人間の死生観や倫理的背景などに密接に関わるうえに、医師の社会的地位や権力性などに鑑みると特殊性の高い組織である。単に社会的に様々な意味付けがされやすい医療組織という対象を学問的にも多様な観点から研究するという本研究の試みには学問的な意義だけでなく、社会的な意義も存在するものと考えられる。

社会的な存在感と比較すると学問的な研究の余地を残す領域であることや、本学教員の多様性という強みを活かす研究プロジェクトである、という観点から本研究課題は本学にとっても意義のある研究となると考える。

活動経過報告

活動状況としては、研究会の開催、ヒアリング調査、分析用のデータベース購入とデータセット作成、という3点に概ね分けられる。

研究会の開催はオンライン・オフラインを併用しながら概ね月に1回程度行ってきた。その中で、定性的調査や定量的調査、理論研究、判例研究などの知見について意見交換を行ってきた。

ヒアリング調査については新型コロナの感染に伴い何度となくキャンセルになってきたが、2022年の11月にヒアリング調査に行くことができた。

一件目は、京都府内にある某病院である。こちらでは、理事長に対して数時間のヒアリングを行うことができ、本プロジェクトの多岐に渡るテーマについて幅広くヒアリングすることができた。また、二件目としては沖縄にて地域の災害時における拠点病院を訪問した。そこではマネジメントスタッフ複数名から数時間に渡って、新型コロナ対応におけるマネジメントのあり方や平時の人材管理の問題、ガバナンスの問題など多岐渡る内容についてヒアリングと議論をすることができ、有益であった。三件目は同じく沖縄の病院であるが、こちらは比較的小規模な病院ではあったが、創業一族の理事メンバーに対して数時間のヒアリング調査を行うことができた。そのため、マネジメントの観点だけでなく事業承継や業界特殊性の高い慣習などについても詳しく知見を得ることができ有意義な時間となった。

これらヒアリングの中で、各プロジェクトメンバーの関心に応じてマネジメントや緊急時の組織レジリエンス、ガバナンスや事業承継などといった内容についてヒアリング調査を行った。成果については現在執筆中ではあるが、一定の知見を得られる有益な機会となっている。

分析用のデータベースであるが、こちらは主にガバナンスや経営効率を分析するために購入した。研究用のデータベースでは無いため、データベースから更に分析可能なデータセットを作るための作業が発生するが、それらについても別途業務委託をしながら現在順調に進行しているところである。

研究対象が小規模なクリニックではなく規模の大きい病院ということもあり、新型コロナの感染状況に非常に大きな影響を受けながら進めてきたため、文献研究を除いて非常に遅れが生じてしまった。ヒアリング調査は新型コロナの拠点病院となっていた関係で幾度

となくキャンセルになるという事態も起きた上に、ヒアリング調査が定量的調査の予備的調査という側面もあったため、ヒアリング調査の遅れは定量的調査にも影響を与えることとなった。結果的に2022年内ギリギリになって比較的感染状況に関わらずヒアリング調査の受け入れ態度が緩和してきたことは本プロジェクトにおいて大変助かる状況であった。

ヒアリング調査などは首都圏などを中心に今後も継続的に続けることで事例研究につなげることを想定している。また、判例や定量的分析に関する調査も継続して行う予定である。